

Good Job Woman

## 第1回 ふくい女性活躍推進企業

# グッドジョブ女性表彰

福井県では平成28年2月16日に「ふくい女性活躍推進企業」に登録された企業の中で、特に優れた成果を上げた7社の女性(グループ)を表彰しました。

### 表彰の対象者

- ・企業内において、新規プロジェクトの推進や、新たな製品、商品、サービスの企画・開発等に貢献した女性(グループ)
- ・特段の営業成績を上げるなど企業内で優れた成果を上げた女性(グループ)



### 株式会社米五 「こめたま会」の皆さん

1831年の創業以来、味噌の味を守り続け、手作り味噌教室を開催するなど味噌の良さを伝えている。

### 若手女性社員が中心となって新しい販路を見い出す。

近年健康食として再認識された発酵食品の味噌。その味を守るため、ベテランも若い社員も一丸となって、新しい食のあり方を考えているのが「株式会社米五」。

2011年より、新入社員を対象とした勉強会が社長のアドバイスにより発足し、後に「こめたま会」が誕生した。それは女性を中心に運営され、商品開発や販売企画の提案、台湾へ出張販売するなど、味噌の素晴らしさを伝えるために毎年テーマを決めて活動している。



「入社して意識が変わりました。料理に味噌を使うとコクが出ますよ」



通信販売部  
池田 佳菜子さん  
入社5年目、通信販売業務を担当しながら、2年前より「こめたま会」のリーダーを務め、様々なプロジェクトに携わる

20代の女性  
おしゃべりに気が付いたらSNSで情報発信が大好き  
手軽だけどおしゃれ  
特別な日のメニュー  
え!? 味をねの? 乾?  
少量 150g  
7/23



毎月1回開かれる「こめたま会」。各部署の20代の女性を中心となって結成された味噌の可能性を広げた商品「MISO de CARPACCIO(ミソデカルパッチョ)」

2年前からリーダーとなった池田さんは、味噌を親しみやすい調味料として再認識してもらいたいと熱意を燃やす。中でも一番苦労したのが、生魚に合う味噌として考案した「MISO de カルパッチョ」だ。試行錯誤の末に商品化に成功し、地元レストランにメニュー提供するなど周囲の反響を呼んだ。

また昨年は、味噌の原材料を作る米農家を自ら取材し、素材の良さを顧客に伝え、売上を伸ばした。「伝統を守るだけでなく、新しいことに挑戦したい」という社長の言葉が、若い社員に受け継がれ、今後の展開が楽しみだ。



計画の見直しや、進め方などに悩んでいた時に上司にアドバイスをもらったことが大きな力に。フロアには女性職員も多く、和やかなムードに包まれている



「現場で職員が働くために地道にコツコツと仕事をしたいです」

業務改善支援室 係長  
澤田 美雪さん

入社13年目、週末は毎週登山に出かけるほど山が好き。その忍耐強さや探究心は今の仕事にも通じている



福井県民生活協同組合 澤田 美雪さん

食品宅配「たんぼほ便」や「ハーツ」、高齢者福祉・子育て支援施設など地域密着型の事業を展開する。

仕事に対するひたむきな姿勢と緻密な計画で社内にも新風を。

「とにかく初めはノープランでした」と振り返るのは澤田さん。生協が運営する事業のサービス向上へむけての職員のアイデア提案制度は以前からあったが、活性化させるに当たり澤田さんが抜擢された。ミッションは与えられたものの、やるのは一人。道が敷かれていない分、一から作り上げる状況が彼女を奮い立たせたという。職員の声をもっと出しやすくするにはどうしたらいいか。悩んだ末に、手始めに各事業部から問題点を聞き、制度を見直した。以前ブライ

バシーマーク審査員の資格取得の際に学んだPDCAサイクルの考え方を利用し「提案↓判定↓実施↓効果検証」の各件数をまとめて毎月配信する。さらに提案が多くあがっている事業所の工夫を取材記事にして、紹介を続ける。そうした地道な努力が実り、1年後に提案件数を約40倍に増やす。アイデア提案制度への関心が職員に広まった結果だった。ブライベールも大切にしている今の上司の存在も励みとなり、彼女の粘り強く真面目な性格が成功を導いた。今年も提案事業を出来るだけ多く組合員満足向上へつなげたいと意気込む。

福井トヨペット株式会社 廣濱 由香さん

「あつたか家族の福井トヨペット」を合い言葉に、車販売を通してお客様との信頼関係を築いている。

コミュニケーション能力を磨き女性営業職のお手本として活躍。

廣濱さんの周りはいつも笑いも耐えない。「この人がいるだけで職場がパツと明るくなる」と人事担当者語る。接客や実務など、一度に複数こなすこと、その間も後輩社員に目を配ることから、社内では頼れる先輩になっている。彼女の営業方法は、お客の話をよく聞くこと。自分との共通点を見つけてコミュニケーションの幅を広げ、徐々にお客に合う車を提案してくれる。また女性客には、できるだけ噛み砕いた言葉を使う

ように心がけている。廣濱さんが車の色を表現すると、「この部分はマットだけど、こっちはラメラメでしょう？」とアイシャドウの質感に例えるなど、女性が喜ぶような表現で会話を弾ませている。梅田係長は「車業界は昔の訪問型から来店型が変わってきています。柔らかな気配りができる女性の接客は会社の顔です。」とも話す。自分が販売したお客の顔や車種を全て覚えていて彼女は、メンテナンス時期や車検時期も把握し、購入後も喜んでいただけるように努めている。この積み重ねが、互いの信頼関係に結びついている。



営業は言わば、お客とサービス工場との橋渡し役。お客の要望をエンジニアに伝える際に、できるだけスムーズに作業が進むように段取りすることも自分の役目だと言う



「自分が担当したお客様から信頼を得られた時が一番嬉しいです」

本店 営業三課 担当課長  
廣濱 由香さん

営業歴19年目、営業スタッフ785名の中で販売台数は常にトップ。7年連続「トヨタ自動車」の優秀営業スタッフ賞を受賞



入ってすぐに設けた「女性優先スペース」は、格好良さを求める男性客のイメージを一新して明るい雰囲気。可愛いチャイルドシートコーナーも充実



北陸リトレッド株式会社「業務改善プロジェクトチーム」の皆さん  
 タイヤ・アルミホイール専門店。  
 充実の品揃えとカーメンテナンスにも定評がある。

## 女性目線の接客を心がけ 居心地の良い空間を提供する。

福井市大和田町の好立地に店舗がある「タイヤセール 福井北」では、買い物ついでにオイル交換などのサービスを受ける女性客が多い。作業ビツトに車を入れた後、店内で作業を待つ女性の姿を見て、「女性のお客様が快適に過ごせる場所があれば、もっと喜んでいただけるのでは」と女性スタッフから声が上がった。

5人でミーティングを重ねた結果、店の一角にカフェをイメージした明るいスペースを設けることに。作業を待つ間も、日頃の疲れを忘れて一息つけるように大きなソファアを配置し、一人はもちろん子供連れのお客様にも喜ばれた。また、可愛いホイールやチャイルドシートのコーナーを作り、女性でも楽しく買い物ができる空間作りにも努めた。

例えば男性スタッフに聞きにくいようなことでも、細やかな気配りができる女性スタッフがアドバイスすることで、少しずつ売上げにも結びついているという。



マイランEPD合同会社 前田 真弓さん  
 世界有数のグローバル医薬品企業。  
 国内生産の拠点として勝山市に事業所がある

## 女性ならではの心遣いと リーダーシップで、様々な業務に貢献。

グローバル医薬品企業「マイランEPD合同会社」勝山事業所で活躍する前田真弓さん。昨年、社名変更旧アポットジャパンに伴う医薬品の輸出継続のため、輸出許可手続きを行うプロジェクトチームのリーダーに就任し、わずか半年の短期間でさまざまな手続きを実行した。「これまで弊社の誰も経験したことのない取り組みで苦労しましたが、部署を横断した大勢の方のサポートを受け無事にプロジェクトを終えることができました」



た。」と当時の様子を語ってくれた。また、こちらでは女性社員が2011年に自発的に立ち上げた「WEP」というチームがあり、女性がより働き甲斐を感じる職場づくりのため活動している。もちろん活動は就業時間内、会社のサポートを受けてのものだ。山崎事業所長は「来社いただいたお客様にサンキューカードを作成してお渡しするなど、女性ならではの細やかな気遣いで弊社の業務に大きく貢献しています。」自分らしく、自分に合った仕事を楽しめている、という前田さん。その姿を目標にする後輩社員も多い。



女性による女性のためのチーム「WWEP(Working Woman Empowerment Project)」の数ある取り組みの一つ「サンキューカード」。従業員同士が感謝の気持ちを伝える





趣味のネイルアート。左小指には第一生命の社章、左薬指にはふくい女性活躍推進企業のロゴマーク



第一生命保険株式会社 小西 恵子さん  
福井支社

「一生涯のパートナー」として人々の安心と豊かな暮らしをサポートする生命保険会社。

人に喜んでもらうことが生きがい  
営業の第一線で長年活躍。

勤続33年目のキャリアを持つ生涯設計デザイナーの小西さんは職場の雰囲気やパツと明るくするムードメーカーのような存在だ。生命保険業界で優秀な営業実績をおさめた人に贈られる国際専門家組織「MDRT」の称号を取得し、人材発掘や新人の育成にも力を注いでいる。

第一生命保険株式会社は、「お客さま第一主義」という経営理念とともに、マタニティ休暇などの充実した福利厚生制度のもと、女性が

安心して働ける職場環境に努めている。また毎月1回「女性向けがん予防セミナー」を無料で開催するなど、女性の健康づくりを積極的に支援している。

小西さんの輝かしい業績の裏には、夫を癌で亡くし、自身も甲状腺癌で仕事を休まざるを得ない大変な苦難があった。仕事復帰後、小西さんには心に決めたことがある。それは医療、年金、介護の面で「今買える安心」を提供してお客様のお役に立つこと。そして自らの経験を生かし、いつもお客さまにしっかりと寄り添える一生涯のパートナーであり続けたいと思っている。



永森建設株式会社 柳澤 有紀さん

室礼(しつらい)を大切にしたい家をコンセプトに、木造注文住宅のトータルコーディネートを行なう。

中学からの夢をかなえ  
一級建築士として歩みだす。

今年3月、「ながもり木箱」というモデル住宅を春江にオープンさせ、その開発プロジェクトに設計士として携わった柳澤さん。それは通常ある内部の耐力壁を取り払い外壁に集中させることで、室内空間をフリーにさせるという新しい発想だ。

子供の頃から図画工作が大好きで、モノ作りに興味を持ち、後に建築士になることを志す。福井大学で建築を学び、憧れの設計ができる会社に入社。その後、発想から形を作る、ゼロから一を作りたい理想が膨



家族の様子に目が届きやすい水回りを集約するなど、女性目線の提案を心がけている

らみ、一級建築士の資格を目指すこととなった。休日の学校通いや、講習に参加するなどの努力を重ねて今年、創業以来初の女性プランナーとしての第一歩を踏み出した。資格を取るまではそのモチベーションを保つことが難しかったが、「会社のバックアップや、切磋琢磨する仲間が存在が大きかったです」と謙遜する。

「家事をこなす女性の意見はとても大事。女性の使い勝手の良い家を提案できるように知識の幅を広げていきたい」。お客様からの難しい要望にも、真摯に答えようとする姿勢は周囲の信頼を得ている。